

後代の延寿像（下）

調停者としての延寿

柳 幹康

蓮宗祖師としての延寿像の変遷を見た前回に続き今回は、延寿が後代諸宗の諍いを解く偉大な調停者として理解されていた流れを見てまいります。

現存する文献を見る限り、延寿が調停者として描き出されるようになるのは、延寿が没して百年あまりを経た後のことです。唐末五代の戦乱のなかで諸宗が衰退したのに対し、禅宗のみが例外的に勢力を伸ばし、当時宋代において中国仏教界を席卷する存在となっておりしました。このような時代にあつて、當時を代表する教養豊かな禅僧のひとり覚範慧洪（一〇七一—一一二八）はその著作のなかで、延寿の『宗鏡録』は禅宗が伝える宗の心によつて教宗——仏教解釈に重きを置く唐代以前の諸宗（天台・法相・華嚴）——の諍いを解いた書物であると記しています（『林間録』

卷下)。この宗の心おおもに基づく調停者という延寿像は、その後ひろく流布するとともに、調停者としての延寿像の祖型となりました。

ついで禅宗が優勢であった宋代から、皇帝により教宗が禅宗の上に置かれる元代になると、延寿を「教禪一致」——教宗と禅宗の統合——という偉業を成し遂げた偉大な祖師と看る理解が現れます。これは当時を代表する禅僧中峰明本（一二六三—一三二三）により示された見方で、彼によれば延寿の『宗鏡録』は、それまで禅に無理解であった教宗の人々に、禅宗もまた仏教の一部であると認めさせた書物でした（『中峰広録』卷一一之上）。その後、明朝の抑圧政策による仏教の衰退を経て、仏教復興の気運が高まる明末になると、延寿は「教禪一致」のみならず仏教内部の一切の諍いを調停した仏教全体の復興者

であるという見方が現れます。このような見方を示したのが時の高僧憨山徳清かんざんとくせい（一五四六—一六二三）で、彼は延寿を仏教の開祖かんとく積尊にもまさる偉大な聖者であるとのほめかしています（『憨山老人夢遊集』卷二五）。

以上の見解はいずれも仏教界の内部において示されたものでしたが、清代になると絶対的な皇帝権力のもとに一切の思想を包摂・統合せんとする雍正帝ようせい（在位一七二二—一七三五）により、仏教全体を一元的に総括した延寿の思想が高く評価されるにいたります。雍正帝は『宗鏡録』に寄せた序文において、次のよう述べています。

朕は政務の合間に『宗鏡録』を紐解き繰り返し読むことで、延寿こそが中国仏教史上最高の導師であり、その著『宗鏡

録』こそが中国仏教史上最も優れた書物だと悟るに至った。

天下の最高権力者である皇帝がこのように明言したことで、当時における延寿の地位は揺るぎないものとなりました。たとえば雍正帝が没して三十五年の時を経た後に出版された仏教書にも、「世の人々は延寿を中国随一の宗師と尊敬している」と記されています（『角虎集』序）。

以上二回にわたり後代における延寿像の変遷を見てまいりました。そこからは禅と浄土、教と禅など各種の対立が前景化するたびに、その問題を「すでに解消していた古の聖人」として延寿が繰り返し想起され、それにともない『宗鏡録』に対する評価が急速に高まっていった様子が読み取れます。元來延寿

の『宗鏡録』は、一心を讀者に開示すべく膨大な仏典から要文をくま遍く集めて百卷にまとめた書物でした。それゆえ後代の人々は、自身の問題意識のもと「禅と浄土」「教と禅」など特定の要素を『宗鏡録』から拾い出し、それぞれが求める仏教の理想像をそこに読み込むことができたのです。

つまり延寿の『宗鏡録』は、それを読む者の求めに応じて「禅浄一致」や「教禅一致」など各種の「あるべき仏教の姿」を映しだす鏡のような書物だったのでした。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編（法藏館）』。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*㊄切りは毎月1日です。

花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花 園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花 園】第67巻 第12号(通巻第796号)
平成29年12月1日発行(毎月1日発行)
定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】畠中寿浩

【印刷人】喜田眞司

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵 「年越し準備」



「見て!こんな伸びる」慌ただしい師走でも、手を留めて子どもの笑顔につられ
笑いです。
絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>
臨黄ネットワーク(臨濟宗・黄檗宗全般)…………… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。